

# 口腔条例の制定など求める

## 協会 指導実態示し是正迫る

協会は大阪府と2月13日に交渉し、口腔保健事業の改善や審査・指導の民主化などを求めた。協会の要望に対し、府は消極的な姿勢に終始した。小澤力理事長ら役員・事務局23人が参加した。



口腔保健条例の制定を求める協会役員ら＝2月13日、大阪府庁

しながら、▽新規指導で自主返還を求めない▽指導時にカルテを複写しない――などを要望した。

府は、「一部ひどいものがあることは認識している」「近畿厚生局に伝える」「など」と述べるにとどまった。協会は「不適切な指導の放置は」不作為を重ね、事態を大きくする。正すべきは正すことが必要」と迫った。生活保護では、ケースワーカーが患者に「頻回受診の適正化」を指導していることを指摘。「受給者の医療アクセスへの干渉を認めるのか」と正した。府は、「ケースワーカーが判断できるものではない。主治医、嘱託医の意見をもらって福祉事務所として判断材料とするよう指導する」と述べた。

口腔保健事業、歯科医療提供体制、国保、審査指導、生活保護など7分野22項目について要望。口腔保健では、「大阪府口腔保健計画(案)」の具体化を求めた。同計画の実効性を高めるために、口腔保健条例の制定を指摘した。協会の「学校歯科調査」から、要治療児童の受診率が低い実態を指摘し、手立てを求めた。府は、歯科口腔保健法があることから、条例は不要とする回答に終

## 命脅かす政治にストップ



「命奪う政治にストップを！」と声を上げる参加者＝2月15日、大阪市内

## 近畿総決起集会に1150人

命や生活を脅かす政治にストップをかけようとして2月15日、近畿総決起集会が御堂会館(大阪市中央区)で開かれた。近畿各府県の保険医協会を含む市民団体、個人ら1150人が参加し、消費税

増税や社会保障改悪の撤回などを訴えた。同集会実行委員会が主催した。集会では、神戸女学院大学の石川康宏教授が実行委のメンバーを生徒に見立て、壇上で「講義」を披露。政府が財政赤字を理由に負担増を迫っていることに対し、「金が回らないのではなく、税金を取るべきところから取っていない」として大企業減税を厳しく批判した。各団体スピーチの後、生存権保障を求めるアピールを採択。集会後は御堂筋をパレードした。

想像しにくい、泌尿器科や婦人科を訪れるのを躊躇する患者は多く、その代わり、一度訪れるとめったに転医しない。医者の中では親を真似て子どもでも平気に露骨な表現するのは健康上の重要課題と捉えているからであろう。

## 相次ぐ不適切な指導

### 協会に寄せられた不適切な指導事例(一部)

- ・実施通知は1時間の指導だったが2時間以上に及んだ
- ・持参物で足りなかったものをその場で取りに帰らされた
- ・持参物で紛失したものは事業所に証明書を発行してもらうよう指示された
- ・指導の翌日に再び電話があり厚生局へ呼び出された
- ・返還金額が少ないから再度点検し直すように電話で指示された
- ・カルテを無断でコピーされた
- ・録音を拒否された
- ・弁護士が帯同して発言した場合は「中断」にしますと言われた
- ・弁護士が遅れてくる場合は入室できませんと言われた

## 近畿厚生局に懇談を要請

行き過ぎた指導の是正を――。協会は近畿厚生局指導監査課に対し、不適切な指導の改善を求めて懇談を要請した。が寄せられていることを要請は、個別指導を受けた会員から次々と相談

受けた対応。

要請書では、指導現場での威力的・強制的な実態を示しながら、「懇切・丁寧な教育的指導」の範疇を越えていると考えられる事例は枚挙にいとまがない」と指摘した。行政手続法に基づく「指導」であるにも関わらず、「あなたも犯罪捜査のために実施されているかのような指導内容になっている」と追及した。「行き過ぎた指導が実施されていることは否めない」とし、協会と懇談し改善するよう求めた。

### 2月度生涯研修講座

## 発達障害を理解し診療を

### 村上氏が特徴と対応を解説



発達障害患者の特徴について説明する村上旬平氏＝2月16日、M&Dホール

臨床・学術部は、発達障害患者の対応をテーマに2月16日、M&Dホールで生涯研修講座を開いた。大阪大学歯学部助教の村上旬平氏が講師を務め、参加者は61人だった。発達障害の分類は、ASD(自閉症スペクトラム症)とADDH(注意欠如・多動症)、LD(特異的学習症)の三つ。ASDは、①視線が合いにくい②空気が読めない――などで、こだわりや反復が見られる。ADDHは、じっとできず感情が不安定。LDは、読み書き計算などに障害がある。歯科所見には特徴的なものはあまりないが、拒食過食による酸蝕、異食による歯牙破折、咬耗などがある。治療はまず保護者や本人から十分な情報を得る。さらに、音、臭いなど強い刺激を避ける。治療時間に目標をつける(10カウントなど)。無理な抑制を避け、トラウマをつくらない。多動症児には安全の確保と待ち時間を短くするなどの工夫が必要である。発達障害の特徴を理解し診療を心がけることが大切である。また、障がい児者のみならず保護者にも配慮が必要である。

(東住吉区・森啓)

## PR増刷号

今号はPR版として大阪府下の全歯科開業医にお送りしています。ご入会、協会の概要についてはお気軽にご連絡下さい。

この新聞を送るに際し、近畿厚生局・各種名簿などにより情報を取得致しました。この情報は、ご入会や講習会、各種共済制度のご案内、新聞の送付以外に利用することはありません。「今後の郵送を断る」などの申し出があれば、事務局までご連絡ください。

《ご連絡・お問い合わせは組織部まで》  
Tel.06-6568-7731

### お知らせ

協会の社務担当事務局員は、4月中旬まで改定書籍『要点と解説』『歯科保険診療の研究』の製作業務で事務所を離れます。お問い合わせは出先から折り返しの対応となります。

診が増えれば、これも「寒翁が馬」の類である。

### 歯界

排泄を日本語では大と小と言う。幼児語だが英語ではNo.2とNo.1に言い分けられる。大の方が、毎日決まった時間に用を足す超健康な人がいる。場所が変わると出ない人は旅行が苦手な数日なら我慢して持ち帰る。

尾籠(びろう)な話題なので古今東西を問わず遠回しな表現文句はいくつもある。遠回しな表現ほど上品で格好よく聞こえる。便秘で苦しむ人は羞恥心がきついのか、我慢強く医者に行かない。小児科医や歯科医には想像しにくい、泌尿器科や婦人科を訪れるのを躊躇する患者は多く、その代わり、一度訪れるとめったに転医しない。